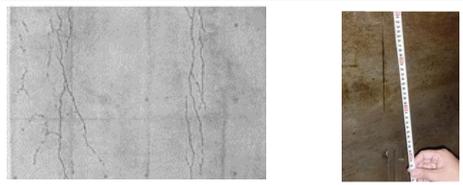


No	12	分野	橋梁	左記に加えて展開可能な分野	道路、空港
プロセス	維持管理	目的	変化の把握	対象物(部材等)	コンクリート構造物
撮影・可視化対象事項	位置、形状			活用効果	コスト、工程、安全

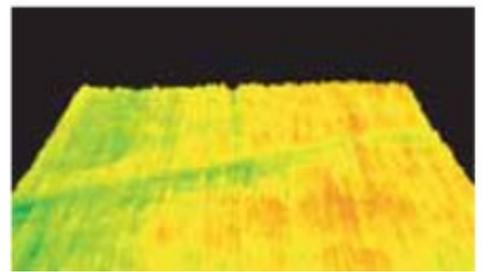
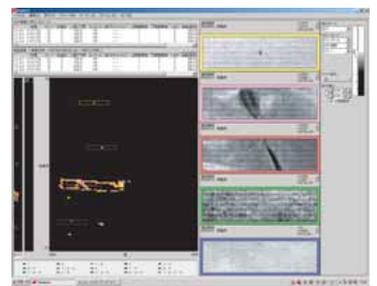
現在の仕事の仕方

- 近接目視によって、損傷程度を評価
- 近接目視およびクラックスケールを用いたひび割れ測定によって、損傷程度を評価。その後、「橋梁定期点検要領-損傷程度の評価区分」や知見に基づき、人が補修箇所を評価・判断



新たな仕事の仕方

- 高精度検査AI技術により、目視では判断つかない遠方から損傷を検知
- 遠方からひび割れを自動検知する技術。7Kモデルカメラで調査対象を撮影し、ニューロ視覚センサを用いた自動ひび割れ検知を行う。
- 橋脚、桁下、道路等のコンクリート建造物のひび割れ調査などに活用。ひび割れの見逃しを無くし、ひび割れ検知の精度が向上するため、品質の向上が図れる



■ 他分野への展開について

<道路・空港分野>
通常のカメラで見えない微細な損傷について、この技術を用いて、遠くから撮影すると損傷部が把握できる。
道路や空港分野への実績あり。
(メーカーヒアリングに基づく)

撮影・可視化対象事項	【位置】変化の把握、【形状】変化の把握
撮影・可視化条件	損傷画像(ピント幅±200 mm) ※目視限界の50 μ m角を2000mm離れて検知可能
対象の属性情報	—